

言靈第三卷・内容紹介

世界が泥の海と化す 6

「世の建てかえ、建てなおし」と進化の法則 8

イワトの巻、書き知らずぞよ 12

「正」の心の喜びと「邪」の心の喜び 22

古事記「ウズメのミコト」の奥に秘められた意味 26

岩戸開きは、精神と心のトビラを開くこと 30
やおよろず

八百万の神の集い 32

神霊の依りつく木「真賢木」 37

女の魂は男、男の魂は女 45

カミカカリして舞い唄い下されよ 46

内奥の次元での「五つの伴緒」の働き 50
とものお

イザナギ神とスサノオの命 60

見た目は大人で中身は幼児 74

不満と怒りは進化の道から切り離される 78

「病む」とは神から巻物をもらったこと 82

ハルマゲドン 90

ヤマタのオロチ 100

三種の神器の本当の意味 106

世を呪うことは自分を呪うこと 114

ふりかかってくるもの、すべて最善！ 120

運命は自由自在 129

霊界とは？ 霊とは？ 132

幽界は人間の心の影が生み出したもの 136

「自己愛」から「真愛」へ 151

悪があればこそ進化の実現がある 158

内奥の自分は神とつながっている 164

幽界の下級霊に意識をつなげてはならない 168

死後の世界——霊人たちの生活 175

本来、悪はなく、暗はなく、地獄もない 179

瞑想なしに神との対面はない 187

「タテのいのち」の次元に目を開く 189

「我意識」とはサザ波のようなもの 193

無限の喜びの世界へ続く「びつくりの道」 198

すべてが天の恵みである！ 202